



“なんかおもしろいこと”始まる。 揖斐川沿い・ 旧城下町エリア



七里の渡跡、桑名城跡・九華公園、六華苑のある揖斐川沿いは、旧東海道があり歴史的に見ても魅力のあるエリア。今、このエリアをもっと盛り上げようとさまざまな活動が行われていることをご存じでしょうか。今月号は、この旧城下町の動きに注目しました。

問 この記事については秘書広報課(☎24-1492 FAX 24-1119)



- 02 キラリ★くわな人
- 03 **特集** “なんかおもしろいこと”始まる。
揖斐川沿い・旧城下町エリア
- 8 選べる桑名子育てリフレッシュ事業
- 9 文化協会設立 30 周年スペシャルイベント
未来へつなごう！桑名の文化
- 10 子育て広場
図書館・六華苑・博物館
- 12 メディカルニュース
くわな防災教室
- 13 かんたん旨レシピ
みんなの掲示板
- 14 EVENT ALBUM(イベントアルバム)

- 16 くわなINFO
- 26 無料相談
- 27 桑名フィルムコミッション
市長まちなか探索
- 28 HAPPY BIRTHDAY
桑名のイトコ教えてください。

今月の表紙

江戸から京都までをつなぐ東海道42番目の宿場町として栄えた桑名宿。旧城下町周辺は、今もほんのり昔の趣を感じることができます。



キラリ★くわな人



桑名マンドリン倶楽部
会長
のりお
豊田 憲生さん

2021年のコロナ禍に、桑名マンドリン倶楽部は創立100周年を迎えました。

マンドリンとは、イタリア発祥の弦楽器で、弦を弾いて音を出す、撥弦楽器に分類されています。弦を連続して弾き続けるトレモロ演奏によって、コロコロと長く響きわたる音色が特徴です。同年4月に会長が交代し、新たに就任した豊田さんですが、「よし、やるぞー」という決意とは裏腹に、当時はコロナ禍真っ只中で、思うように演奏ができず、悶々とした日々が続いていたそうです。

それでも創立100周年という節目に対し、「現役員として、また、当倶楽部を預かる会長として携わることができ、とても感慨深く思います。当倶楽部に携わる全ての人に、敬意と感謝の念を抱かずにはいられません」と豊田さん。

今後は、「当倶楽部の理念である『楽しい合奏』をモットーに、コロナが5類に移行された今日、各学校や福祉施設の訪問演奏、県や市の文化祭などに参加し、ゆっくりとまた1年1年歩み続けていきたいです」と話してくれました。



今年の5/28(日)に柿安シティホールで開催された創立100周年記念演奏会



川口町8



本町10



三之丸34

近頃、住吉地区で民泊が誕生。なぜ？

かつて東海道の宿場町として栄えた七里の渡跡や六華苑などがある住吉地区は、桑名駅など交通網の発達により徐々に宿泊施設が減少。しかし現在、民泊や古民家を改装した宿泊施設が新たに誕生しています。

Q なぜ住吉地区で民泊をスタートしたのですか？

住吉地区周辺は、中世の自由湊、東海道の宿場町として栄えてきた歴史がありますが、現在は、昔の繁栄が失われつつあるエリアです。

そのような状況下、かつての宿場町「桑名宿」のにぎわいを復活させようと私たち 18banchi は「まちやど桑名宿」の事業を始めました。

まちやどの1棟目は、一の鳥居を目の前にする「川口町8」。周辺は、六華苑などの観光地も近く、歩いて散策するのも楽しいエリアのため、古くから残る桑名の魅力を体感していただけたと考えています。民泊は、他に「本町10」「三之丸34」の合計3棟を運営しています。

今後は、それぞれ桑名らしい特色をもったまちホテルとして活動を広げていけたらと考えています。

Q お客様はどんな人が多いですか？

一棟貸しの宿泊施設が多いため、小さなお子さん連れのファミリーやグループ旅行の人がメインです。

一般的なホテルに比べ、周辺の環境が静かなことや気兼ねなく滞在できることが喜ばれています。また、桑名市民には、遠方の親戚や友人を招いたときの滞在先として選んでいただけたということもありました。



答えてくれたのは
18banchi
支那人 水谷 佳史さん

川辺でいろいろなイベントスタート！

にぎわいを見せる住吉地区の一つである揖斐川河畔ではいくつかのイベントが開催されています。今回は「水辺で乾杯」「アロハラボ」という2つのイベントを運営する「くわなラボ」に話を伺いました。

Q これまでに実践したイベントについて教えてください。

「水辺で乾杯」は、毎年7月7日の午後7時7分に、水辺で一斉に乾杯するという全国各地で行われている取り組み。桑名市では、住吉神社周辺で昨年初めて行われました。キッチンカーの出店をはじめ、音楽・ダンスのステージ、七輪を使ったBBQゾーンを設け、桑名城の一部を再建した「蟠龍橋」のライトアップを見ながら、楽しい夜を過ごしました。

ハワイをテーマにした「アロハラボ」は、2021年から毎年行っているイベントです。「公園を使って何か楽しいイベントできないかな」という思いから、地域の女性の協力を得て実現。SNSで告知して、500人くらいの人が集まりました。飲食系ブースやフラダンスのステージなど、会場はハワイアンな雰囲気になります。イベントを満喫して

Q 今後、どんなイベントを考えていますか？

「水辺で乾杯」「アロハラボ」とともに、今後も毎年続けていけるといいですね。くわなラボ自体が、挑戦する人とそれを応援する人がつながり、街の発展につながっていく活動をやっていく予定なので、川辺で何かしたい！と考えている人たちも応援していきたいと思っています。コロナ禍でイベントが中止になっていた2020年には、ダンスの発表プロジェクト「FOCUS ME」を実施。六華苑で撮影し、YouTube上で公開しました。地域が盛り上がることは、イベントに限らずやっていきたいです。

新しい宿泊施設が続々登場！



マルヨ ホテル
MARUYO HOTEL

1日1組限定の1棟貸ホテル。現代アート、工芸、食を愉しむ唯一無二な空間の宿。
所在地 船馬町23



カサワタリクワナ
CASA WATARI KUWANA

揖斐・長良川を望む桜堤を下った先に、ひっそりと佇むスモールラグジュアリーな古民家宿。
所在地 桑名66317

吉之丸でイベント開催計画中！



Good Job Market
2023.11.4-5(sat-sun)
モノと音楽と時々アート
三重県最大級
マーケット開催



西塚 卓郎さん



柿安コミュニティパーク三之丸公園で新たなイベント「Good Job Market」を開催しようとして計画しているのが、西塚卓郎さんをはじめとする実行委員会の人たちです。「よい仕事(ヒト・モノ・コト)に出会えるマーケット」をコンセプトとして、桑名に多く人が集まるよう歴史スタンプラリーや桑名の竹を使ったオブジェの設置、各種マルシェ、音楽ステージなどを予定しています。日程は11月4・5日。1000〜1500店舗が出店予定。ぜひ、遊びに来てください。



答えてくれたのは

くわなラボ

藤本会計パートナー 藤本 純さん(左)
かねき商店 水谷 将さん(右)



もっと川辺を楽しめる場所に！ 河川空間のオープン化に向けた取り組みスタート！

令和3年に設立された「桑名市かわまちづくり協議会」。
何を目的にどんな活動をしているのか、お聞きしました。



協議会が作成した全体イメージ(柿安コミュニティパーク前)

Q なぜ、かわまちづくり協議会が設立されたんですか？

河川は「河川法」によって管理されている空間ですが、現在は規制緩和が進み、地元の要望を受けて許認可手続きを行えば、民間事業者が営利目的であっても利用することができるようになっています。この「河川空間のオープン化」は全国100カ所以上で展開されています。

Q この地区の魅力とは
どんなところですか？

一方、桑名市が策定した総合計画の7つのビジョンのうち、「桑名をまちごとブランドに」のなかで、歴史や文化が色濃く残る住吉地区・七里の渡跡周辺を盛り上げたいと考えていました。そこで、桑名市と国土交通省木曾川下流河川事務所、地域の民間団体などと連携した「桑名市かわまちづくり協議会」が設立され、揖斐川河口周辺エリアでも「河川空間のオープン化」に向けた動きがスタートしました。

このエリアには旧東海道の「七里の渡跡」や国重要文化財

の「六華苑」などの史跡が残っています。

ただ、観光資源は豊富にありながらもスポットがぼつり、ぼつりであるだけで、単体で観光客を呼べるかという疑問が残ります。しかし、駅から散策できるようにルート整備され、カフェなどの立ち寄れる場所などがあれば、日帰りでもお出かけ先の一つとして候補に挙がる、魅力あるエリアになると考えています。まずはみんなが水辺でやりたいことが何なのかを模索して、人を集められる魅力あるコンテンツを増やしていくよう取り組んでいます。



協議会が作成した全体イメージ(住吉浦前)

Q どんな人が協議会に参加していますか？

いくら行政がにぎわいを作りたい、と考えていても、誰も手を挙げなければ絵に描いた餅です。そこで、地域の事業者など公共空間を活用したイベントをやりたいと考えている人たちに集まってもらいました。協議会の構成員としては桑名市、木曾川下流河川事務所、桑名商工会議所、東部商研、桑名市観光協会、桑名市商店連合会、精義地区自治会連合会、桑名ブランド協議会、合同会社くわなラボです。

Q どんな未来を想像していますか？

治水上・利水上の支障がないことなど、しかるべき要件を満たしていれば、イベント施設や売店、オープンカフェ、自動販売機、船上食事を活用することで、人が集う場所となり、商業活動が活発に行われ、にぎわいのあるまちになることを期待しています。さらに、歴史的、文化的資源を活用しながら、このエリアならではの体験コンテンツをつくり、観光地として付加価値を高めていければ、宿泊につながる多くの観光客を誘致することができると思います。そこで、人が集うイベントをやってみようという柿安コミュニティパークで「アロハラボ」や、揖斐川や七里の渡し公園で7月7日の「川の日」に「水辺で乾杯」というイベントが実施されました。どちらも、想定以上の来場者があり、第一歩としては手応えを感じています。

「河川空間を使って地域が盛り上がることをしたい」と考えている地域の人たちによる提案は大歓迎です。まずは市観光課へ相談にきて、桑名でしかできないアイデアなど、地域の活性化につながることを提案いただき、一緒に実現に向かって進んでいきたいと考えています。

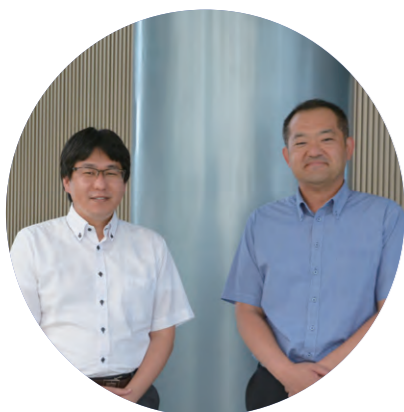


協議会に向けた打ち合わせ。

や店舗運営など
を実践してみ、
にぎわいづくり
の方法や空間活
用の仕方を検討
します。



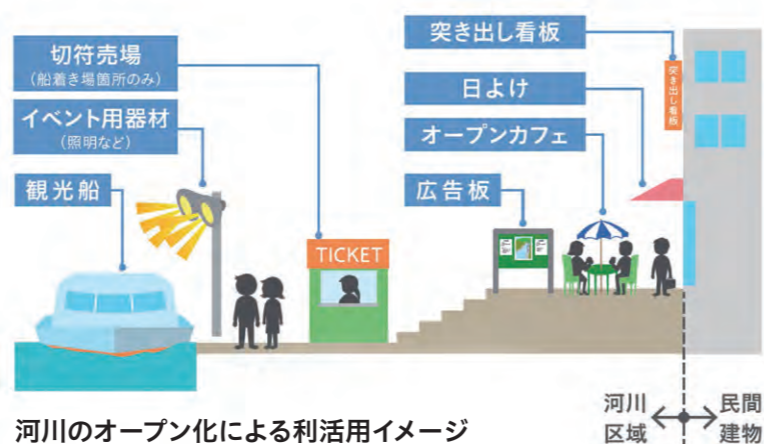
水辺で乾杯イベントで想定以上の来場者があり大変にぎわいました。



答えてくれたのは

桑名市かわまちづくり協議会

木曾川下流河川事務所 大友 逸斗さん(左)
市観光課 平野 伊彦さん(右)



河川のオープン化による利活用イメージ